国際歯科保健に参加した学生は何を感じたか

松山　佳永，中村　修一，安部　一紀，白田千代子，深井　穫博

What students participated in the international dental cooperation program had achieved in their activities in Nepal

Kae Matsuyama，Shuichi Nakamura，Kazunori Abe
Chiyoko Hakuta，Kakuhiro Fukai

キーワード：国際協力、歯科学生、ネパール

はじめに

歯科学生にとって国際歯科保健医療協力は興味ある課題である。国際協力への学生の参加は年々活発になっている。ネパール歯科医療協力会のミッションに参加した学生が何を感じたかを調べる目的でアンケート調査を行った。

調査方法

ネパール歯科医療協力会は歯科の分野で国際貢献ができないかと、ネパールの自立支援を目標に1989年から国際歯科保健医療活動を行ってきた。今日まで24回のミッションを派遣し、延べ693名（実数231名）の隊員が参加している。そのうち学生は78名である。うちわけは歯学部72.9%、医学部5.7%、看護・福祉学部10.0%、また、男性37%、女性63%である。

今回、アンケート調査の対象となったのは、過去9ヶ年（2002～2010）で15～24次隊に参加した学生25名である。アンケート内容は1. 国際交流に関する興味はいつ頃からあったか。2. ネパール歯科医療協力会の活動情報をどのようにして入手したか。3. ミッションに参加を決断したものは何か。4. 事前研修について　1）出発前研修に満足したか。2）自己学習は十分だったか。5. 現地の活動に参加してどうだったか。6. 出発前の期態度と帰国後の満足度。7. プロジェクトの内容で興味を持ったのは何か。8. 参加して得たもの。9. 自分自身参加して変わったこと。10. 参加して、何か自己が開発されたか。11. 将来も国際協力に参加したいか。12. 参加して、参考になったことは何かの計12項目である。結果を基に回答分析を行った。

結果および考察

1．国際交流に関する興味はいつ頃からあったか（表1）。

最も多いのが高校生36.0%であったが、小学生

表1　国際協力に関する関心はいつ頃からあるか

項目	人数	%
小学生	4	16.0
中学生	6	24.0
高校生	9	36.0
大学生	4	16.0
その他	2	8.0
合計	25	100

【著者連絡先】
〒803-8580　北九州市小倉北区真鶴2-6-1
九州歯科大学国際協力室
ネパール歯科医療協力会
松山佳永
TEL&FAX：093-583-6132

16.0％、中学生24.0％と小中学生のときで半数近くを占めている。若年から国際協力に興味を持つ人が多く参加していることが分かる。

２．ネパール歯科医療協力会の活動情報をどのようにして入手したか（表2）。

「先輩隊員」という回答が44.0%と最も多かった。「先輩隊員」とは、家族や学校など身近にいるネパール歯科医療協力会における国際歯科保健医療協力活動参加者である。身近な経験者から体験した話を聞き、初めに情報を入手した人が多いことが分かる。この結果は本会の活動に関する情宣のあり方に関して検討が必要であると思われる。次に九州歯科大学および信州大学における国際保健医療学の講義を聴いてが32.0%であった。学生に対する早期の国際保健医療の講義が学生の行動の変容に有効性を示すと考えられる。次いで本が12.0%、新聞8.0%、大学入試案内8.0%と続いた。最も少なかったのがインターネットで1%であった。今後の検討が必要である。

表2　ネパール歯科医療協力会の活動情報の入手方法

項目	人数	%
先輩隊員	11	44.0
講義	8	32.0
本	3	12.0
新聞	2	8.0
大学案内	2	8.0
インターネット	1	4.0
その他	1	4.0
合計	28	112

（複数回答）

３．ミッションに参加を決断したものは何か（表3）。

「興味・好奇心」が32.0%と最も多く、次いで「体験談」が２０.0%と多かった。好奇心旺盛な人が多く、経験者の体験談も大きく影響を与えていることが明らかとなった。

表3　ミッションに参加を決断したもの

項目	人数	%
興味・好奇心	8	32.0
体験談	5	20.0
成長したい気持ち	3	12.0
その他	9	36.0
合計	25	100

４．事前研修について、1）出発前研修に満足したか（表４－1）。2）自己学習は十分だったか（表４－2）。

ネパール歯科医療協力会が実施した新人向けの事前研修については「大変満足」と「満足」で8割近くを占めている。これに対して自己学習に関しては「大変頑張った」から「やや不足」まで階段状に増えている。自己学習が不足でも事前研修では十分学べる傾向がある。

表4　事前研修について

4－1）事前研修について出発前に満足したか

項目	人数	%
不足	1	4.0
やや不足	1	4.0
ふつう	4	16.0
満足	11	44.0
大変満足	8	32.0
合計	25	100

4－2）自己学習は十分だったか

項目	人数	%
不足	2	8.0
やや不足	9	36.0
まあまあ	8	32.0
がんばった	4	16.0
大変がんばった	2	8.0
合計	25	100

５．現地の活動に参加してどうだったか（表5）。

「大変よかった」が92.0%、「よかった」が8.0%を占めている。現地の活動に対して、全員が参加して良かったと回答し、前向きでプラスな思い出や印象が強く残っていることが分かる。

表5　現地の活動に参加してどうだったか

項目	人数	%
大変よかった	23	92.0
よかった	2	8.0
合計	25	100

６．出発前の期態度と帰国後の満足度（表6）。

期態度と満足度を5点満点で回答を得た。期待

度と満足度、其々平均をとると、期待度が3.9であったのに対し満足度が4.8とほぼ満点近い回答であった。期待を上回る経験が現地で得られたと感じている学生が多いことが判る。

表6　出発前の期待度と帰国後の満足度（5点満点）

項目	人数	平均
期待度		
5点	7	平均3.9
4点	12	
3点	4	
2点	2	
満足度		
5点	21	平均4.8
4点	4	

7．プロジェクトの内容で興味を持ったのは何か（表7）。

ネパール歯科医療協力会は1989年から23年間、22ヶ所のフィールドで国際保健医療協力を展開した。実施したプロジェクトは20項目を数えるが、2010年には歯科診療、学校歯科保健、口腔保健専門家養成、母子保健とこれらを統合した地域歯科保健開発の5つのプロジェクトに収斂した。参加した学生がこの5つのプロジェクトで興味を持った順に項目を選択してもらった。1位に選ばれれば5点、2位に選ばれれば4点、3位に選ばれれば2点、4位に選ばれれば2点、5位に選ばれれば1点とし、其々の項目に加算した。

その結果、群を抜いて得点が高かったのが学校歯科保健で90点であった。学校歯科保健の活動項目は①歯科検診。②健康教育。③12歳児検診充填プログラム。④フッ素洗口。⑤学童の口腔保健行動調査。⑥地域歯科保健開発などで今日まで継続して展開中である。

表7　プロジェクト内容で興味を持ったもの（順位つけ）

1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点

項目	点数合計
学校歯科保健	90
母子保健	63
診療	57
人材育成	39
地域保健開発	31

学校歯科保健は高度な技術の修練など必要なく、出発前の研修・自習でマスターできる。知識、技術が未熟な学生も充分活躍できる場の一つと言える。以下、母子保健63点、診療57点、人材育成39点、地域保健開発31点の順となった。母子保健が二位に興味を持たれたことは注目に値する（図1）。

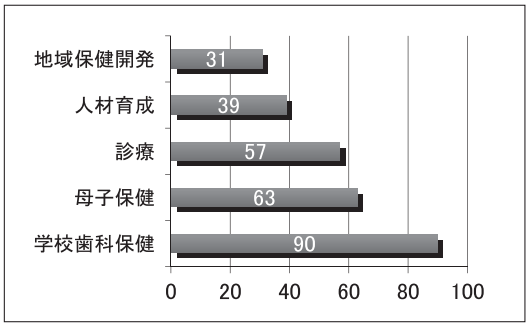

図1　プロジェクト内容で興味を持ったもの

8．参加して得たもの（表8）。

約60%が「仲間」という回答であった。「仲間」とは日本から一緒に行った隊員達だけでなく、現地で出会ったネパール人スタッフや参加者、日本での活動を共に行ったネパール歯科医療協力会会員も含まれていると考えられる。一度の参加でも人との繋がりが広がるのが分かる。

表8　参加して得たもの

項目	人数	%
仲間	15	60.0
ネパールでの体験	6	24.0
知識	5	20.0
広い視野	4	16.0
歯科に対する興味	3	12.0
その他	3	12.0
合計	36	144

（複数回答）

9．自分自身参加して変わったこと（表9）。

「視野が広がった。」という回答が32.0%を占める。ネパール歯科医療協力会の隊員は年齢層が幅広く、職業も様々で、色々な人と接し、また、日常とはかけ離れた環境で生活・活動することで「視野が広がった。」と考える回答が多かった。次

に優しい心や協調性が28.0%を示した、活動期間が二週間と短いにも関わらず、途上国での環境や窮屈な団体活動の中で若者は逞しく自己啓発している様子を知ることが出来る。

次いで16.0%を占める「将来の歯科医師としての責任感」とは、歯科保健医療を求めるたくさんの人を目の当たりにすることでモチベーションが上がり、「将来の歯科医師としての責任感」を感じるという内容であった。

表9　参加して自分自身で変わったこと

項目	人数	%
視野が広がった	8	32.0
将来の歯科医師としての責任感	4	16.0
優しい心や協調性	7	28.0
チャレンジ精神	2	8.0
途上国への興味	1	4.0
その他	3	12.0
合計	25	100

10. 参加して、何か自己が開発されたか（表10）。

自己開発と言う言語が理解できなかったのか、分からないが36.0%であった。ついで自信・積極性と素直に自分が見られるようになったが共に16.0%を占めた。次に8%を占める「表現能力」とは、「笑顔が多くなった。」や「人前で歌えるようになった。」など、人と接することで身につく内容であった。

表10　ミッションに参加して何か自己が開発されたか

項目	人数	%
分からない・気付かない	9	36.0
自信・積極性	4	16.0
素直に自分を見れるようになった	4	16.0
表現能力	2	8.0
協調性	1	4.0
その他	5	20.0
合計	25	100

11. 将来も国際協力に参加したいか（表11）。

将来も国際協力に参加したいというのが満場一致の回答であった。「もっと自分で出来ることを増やして活躍したい」や「今後どう携わっていくか考えている」など、国際協力に対して積極的な回答が多かった。

表11　将来も国際協力に参加したいか

項目	人数	%
参加したい	25	100
合計		100

12. 参加して、参考になったことは何か（表12）。

国際歯科保健の重要性が36.0%と最も多かった、次に健康教育の大切さが16.0%を示し、次いで多かった回答が勉強しようと思ったが8.0%である。ネパールでの活動を通し、将来の歯科医師としてのモチベーションが上がった結果と考えられる。

表12　参加して、参考になったことは何か

項目	人数	%
国際歯科保健の重要性	9	36.0
健康教育の大切さ	4	16.0
日本の保険医療と比較して思うこと	2	8.0
勉強しようと思った	2	8.0
母子保健の大切さ	1	4.0
診療の大切さ	1	4.0
自立支援の重要性	1	4.0
人間関係の重要性	1	4.0
その他	4	16.0
合計	25	100

アンケートの回答解析はKJ法により行った。回答は大きく分けて5つのグループに分けられた。「国際協力」、「歯科保健医療」、「人間関係」、「自己啓発」、そして「進路」である。其々のグループの具体的な意見をいくつか挙げる。

「国際協力」…「国際協力の難しさと素晴らしさを知った。」「自分達が国際協力活動を広めていかなければならない。」

「歯科保健医療」…「歯科医師の活躍できる場がとても広いことを発見した。」「新しい歯科医師の姿を見いだせた。」

「人間関係」…「人間関係が大きく広がった。」「相手を考える心が芽生えた。」

「自己啓発」…「挑戦してみる気持ちが強くなった。」「考えが前向きになった。」「自分を素直に見られるようになった。」

「進路」…「歯科医師としてのモチベーションが上がった。」「進路を明確に考えるようになった。」

グループ同士の関係性について、ネパールや日

本での国際協力活動の参加することで自己啓発に繋がり、歯科保健医療を通して人間関係が広がる。これを繰り返すうち、歯科医師としての進路が徐々に見えてくるという関係性である。

まとめ

専門的な知識や経験が少ない学生でも現地での国際保健医療協力活動を通して、将来携わる保健や歯科医療や国際協力に関する意識が高まることがわかった。若年での参加は大いに有意義であると考える。

What students participated in the international dental cooperation program had achieved in their activities in Nepal

Kae Matsuyama，Shuichi Nakamura，Kazunori Abe，Chiyoko Hakuta，and Kakuhiro Fukai
（Association of Dental Cooperation in Nepal（ADCN,））

Key Words : International cooperation, Dental students, Nepal

Research was carried out among dental student members who participated in the dental health promotion program promoted by the Association of Dental Cooperation of Nepal（ADCN）.

The research questions consisted of 12 sub items, including the motivation for participation, evaluation of own activities and methods of obtaining the results.

Regarding the results,

1. They have had an interest in international cooperation activities since a young age and from the lectures in college or descriptions of experiences by members of ADCN, which caused their motivation to accelerate.
2. What they had achieved in activities in Nepal was the dental health education and care program in schools, maternal and child health and oral treatment.
3. Their satisfaction in the activities as the member was 4.8 point. This showed that they were about 96% satisfied and satisfaction was higher than execrated.
4. Merits of participation as student members were fillings of fellowship, setting up their willingness to undertake the dental study, responsibility for their future as dental doctors, an increase in their personal expression and so on.

These results showed the improvement of their human power. Therefore, international corporation activity for dental health could be promoted more effectively because of the opportunity for self-development and self-education.

Health Science and Health Care 10（2）：91－95，2010